2020年度の授業

受講者数は、52人でした。新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業となりましたが、Microsoft Teamsを使い、少人数グループによる課題解決型学習＝PBL（Problem Based Learning）の技法を用いたグループワークを実施しました。まず、各グループで取り組みたいマイノリティ問題を決め、各自で調べたことや共生と社会についての学びをいかし、マイノリティの人々が生きやすい社会デザインについて発表しました。受講者をチャネルと呼ばれる小グループに振り分けることで、チャネル内でファイル共有やコミュニケーションを行うことできます。これらの機能を利用して、各自で調べてきたレポートファイル等を共有したり、学生が自由に投稿や会議の機能等を使うことで授業外でもメンバー同士で意見交換をしたりすることができました。
つぎに、それぞれの発表に対して、他のグループのメンバーがコメントをしました。Teams内で、アンケートや投票等ができるMicrosoft Formsを使用し、それぞれのグループ発表に対して他のグループメンバーがコメントをし、それらを全体で共有しました。最後に、これらのコメントをもとにして、改めて社会デザインを考えるレポートを作成しました。
なお、各グループで取り組んだマイノリティ問題は、性的マイノリティに関する問題、障害者に関する問題、路上で暮らす人に関する問題、人種問題でした。

受講者の感想

- 「マイノリティのライフヒストリー」と本授業を通して、いろいろな課題がある中で、どのようにすればマイノリティに属していても周りを気にすることなく生きることができるのかを、しっかり考えることができたのではないかと思います。また、自分自身も何らかのマイノリティに属していることもあるかもしれないので、マイノリティ問題は他人事ではないということも実感しました。マイノリティ問題で一番大切なことは、「他人事」ではないと自分自身で理解し、自分だったら？という視点で考えることではないかと思います。（創造工学部1年生）
- 差別やマイノリティ問題や共生に関する様々な考え方の多くが新鮮なものでした。また、カテゴリー化というものも、人を認識する際に切り離せないものであることを前提としたうえで、カテゴリー化をずらしてみるという考えが印象的でした。今までによく聞いた、倫理的な観点でただ差別をしてはだめ、とするのではなく、どう考えてみるかという具体的なものだったので興味深かったです。自分も普通に差別をしてしまっていることがあるように感じました。また、全体として、なんとなく差別問題を身近に感じました。（法学部1年生）
- グループで様々な意見を出し合い、議論を深め、一つの解決策を導きだせたという経験から、課題を解決しようとする際に、多くの人の意見や考えを持ち寄り、多様な視点からから問題を見つめることの大切さを実感できました。マイノリティについて考える際に大切なことは、想像力を働かせることと、解決策をデザインする人同士の間や、解決策をデザインする人とマイノリティを抱える人との間のコミュニケーションを積極的にとることであると、この講義を通して学びました。また、誰かの気持ちを考えることを、日ごろから大切にしたいと思いました。（教育学部1年生）